

## 社会福祉士指定科目（精神保健福祉士との共通科目含む）

ここにあげたもの以外にも多くのご感想・ご意見をいただき、ありがとうございます。

### ●社会福祉原論（職業指導も含む）

- ・ 講義のなかの「他人への援助は必ず自分に還ってくる」という言葉には自分の日々の実践を思っ、身につまされるような思いを持った。ものごとの両面を教えていただき、とても深い講義だった。もう一度講義を受けたい。
- ・ 本当のことを知るために、書いてあることの裏を見るという視点を教わりました。「生きる」ということがどれだけ難しいかを考えさせられ、今こうして幸せであることに感謝したい思いとなりました。また、参考文献をたくさん教わり、読みたい本が増えました。
- ・ 社会福祉への考え方だけでなく、言葉の受け取り方、まとめ方、ものの見方、考え方を示してくださる貴重な授業でした。現在相談援助業務についている自分の態度の甘さを痛感します。私自身の社会福祉観を、先生の授業を通じながら深めていきたいと思えます。
- ・ 現在福祉の仕事をしていますが、講義はとても分かりやすく、興味深いものであったと同時に、とても重苦しいものでした。今後授業で得た苦しさを忘れず、実践のあり方を模索していきたいと考えています。
- ・ 「考える」ことのあり方について、深く学ぶことができました。とても有意義な3日間でした。
- ・ 福祉とは一体何か、学べば学ぶほど、どんどんわからなくなってしまう。だからこそ、学び続け、そして実践し続ける。今回のスクーリングでそう教えていただいた気がします。

### ●地域福祉論

- ・ 震災後、地域の関わりの重要性について強く感じるようになりました。どの福祉分野でも、そこに地域が結びついたとき、人々は本当の意味でのノーマライゼーションを実現し、質の高いQOLの実現となるのではないかと講義を通して考えました。私の住む地域も将来的には高齢者の町になると思います。それから対応するのではなく、そのための準備も含め、今から地域づくりを自分たちの手でしていくことが重要ではないかと感じました。
- ・ 福祉教育の中で高齢者や障害者の疑似体験が行われていることについて、先生の反対意見を聞き、考えさせられました。ただかわいそうという思いだけでは福祉教育とは言え

ないと感じました。もう少しよく考えてみたいと思います。

### ●社会保障論

- ・社会保障は一見整備されているように見えるが、年金にしても介護や医療にしても、できることに限界があること。また、社会の状況の変化が激しく、安定していないこと。それに対しての社会保障のあり方とは？将来はどうなるのか？いろいろ考えさせられました。
- ・木を見るだけでなく、森を見て考えることの大切さを学びました。制度別に見るだけでなく、それぞれの制度は密接に関わりあっていること、その better な内容は？などという考え方が学べたところがとても勉強になりました。

### ●公的扶助論

- ・生活保護の原則はあれども、例外規定もあるということ、即不正受給と決めてしまうのではなく、自立への促しとして“ケース・バイ・ケース”で当てはめていくということを学びました。今一度明日からの業務を見直します。
- ・先生のご経験に基づいて講義していただき、とても印象深かったです。現在の仕事の中で、なぜ今学ぶことが必要なのか、学んだことをどう活用していくのか、ということについてとても参考になりました。福祉の現場では大変なことがたくさんありますが、「いつか報われる」という言葉に勇気を頂きました。
- ・ホームレスの自立支援プログラムについて考えさせられました。仕事に就き、住む家が与えられるということは、世間一般からみれば「良かった」とされがちですが、簡単にそうとは言えないということが分かりました。人は人とコミュニケーションをとりながら、心を通い合わせることが大事なのだと改めて思いました。
- ・生活保護は「権利」だということ。日ごろ業務で生活保護を受けたほうがいいと思う対象者がいたとしても、実際にその相手に伝えたとき、「それはまだ早い」「嫌だ」と答えられる方が多い。そのような気持ちを受け止めた上で、より良い、現実的な方法をとともに模索していくことが必要なのだと感じた。

### ●福祉法学

- ・講義が面白く、とても分かりやすかった。配付資料がなかったため、ノートに必死に書き留めたことがかえって内容が頭に入ったように思う。
- ・「人間は常に前に進むこと、ゆっくりでもいい、止まってしまえばゼロになる」先生の言葉に勇気をもらいました。私も少しずつでも勉強に励もうと思います。
- ・今まで業務の中で成年後見制度についての研修に参加したり、リーガルサポートセンターのパンフレットを見たりしても、制度の内容の説明はあっても、後見される側につい

ては触れられず、よくわかりませんでした。今回講義を受講し、制度の仕組みをよく理解できるようになり、より身近な制度として感じるできるようになったと思います。

- ・ 成年後見制度の中で、特に市民後見人についての関心が高まった。行政側としても、一般的にもっと認識されるように啓蒙しても良いのではないかと感じる。

### ●福祉社会学

- ・ 先生の熱い講義によって、エネルギーをいただきました。人として大切なことや人との関わりの中で社会が作られていくということ、先生は今まで経験されてきたことを伝えてくださり、心が動かされるものを感じました。
- ・ 先生のパワー溢れる講義、期待通りのものでした。社会学は自分の身の周りに起きていることを色々な視点から見ることだと感じるとともに、自ら世の中で起きていることに関心を持つこと、物事の裏に潜む問題にも目を向けることが重要であると感じました。
- ・ 全ての内容が新鮮で、鮮明に自分の頭にインプットされました。

### ●福祉心理学

- ・ 非社会性生きがいについて学び、とても新鮮でした。日ごろのソーシャルワーク活動の中で関わる時にも、その生きがいの方にとってどんな意味があるのか理解することが、その人そのものの理解につながるのだろうと感じました。
- ・ 言語性能力と動作性能力の衰えの時期の違いにより、動作や行動が自分の思い通りにいかないことに苛立ち、介護者に対して暴言や拒否の態度につながることを、介護者側からの言葉かけは重要であることを学びました。

### ●医学一般

- ・ 現場での経験による思い込み等もあったため、基礎的なことを振り返ることができて良かったです。相談援助場面だけでなく、医学・生理的にみても個人差があることを忘れてはいけなと感じました。
- ・ 人間の体のつくりの素晴らしさを感じました。なんと緻密にできているのだろうと不思議に思いました。大切に使わなくてはと改めて思います。

### ●福祉行財政と福祉計画（福祉計画法）

- ・ 国の歳出のなかで社会保障関連費が最も多いこと、年金・医療・介護への給付が7割を占めることを学び、高齢者医療の実情、高齢者の尊厳のあり方を含めて、もっと議論されるべきではないかと感じます。
- ・ 国の歳入が、租税収入とともに同じぐらいの規模の公債金に頼っていることを初めて知りました。今後さらに消費税を増やすのであれば、生活支援の対策もほしい、などとい

ろいろと考えさせられました。

### ●障害者福祉論

- ・障がい者への差別は気づかないうちにあるのではないかと感じた。また、「障がい者」という言葉について考えせられ、もし自分や家族、友人が障がいを持った時に「障がい者」とは呼ばれたくないし、呼びたくないと感じた。代わる言葉はあるか、今後も考え続けていきたいと思う。
- ・脳性麻痺当事者の方の意見を聞くことができたが、出生前診断について、命の重さとともに深く考えなければいけない問題であると考えさせられました。
- ・先生の資料がとても丁寧で、講義も先生自ら使用している補助具を拝見させていただき、勉強になりました。実感がわき、楽しく受講させていただきました。
- ・「人間とは環境とパーソナリティとの掛け算である」という言葉が印象に残っています。人間にとって環境がいかに大事であるか、環境を変えていくことで目の前の障壁を取り除くことができるということに強い希望を感じました。
- ・データを読み、これからどうなるか見抜く力が福祉の世界には足りないのではないかとこの話に同感しました。異分野から学ぶことを意識的に行い、多職種連携が今後の福祉の発展のためにとても大切であると実感しました。かかわりの評価を行うことの意味も納得しました。
- ・障害（者）の捉え方の広さに考えさせられました。また、現在の障害（者）観はノーマライゼーションやリハビリテーションの概念が深く関係していること、歴史を学ぶこと、ミケルセンやニルジェなどの思想を学ぶことの必要性を感じました。関川先生の柔らかな考え方に共鳴しました。

### ●保健医療サービス論

- ・MSWとしてナラティブを書き換えていくことの責任の大きさ、重要性を改めて気づかされました。
- ・この項目についてまとめておくとよい、など自己学習を行ううえで重要なポイントを示してくださったことがとても良く、今後の学習に役立てていけると思いました。

### ●社会福祉援助技術総論

- ・講義中、学生からの質問にも応じてもらえ、ありがたかったです。自分は今デイサービスに勤務していますが、勤務先でのソーシャルワーカーの仕事の現状に疑問を感じていました。先生の話聞いて、ソーシャルワーカーのフィールドの広さ、できることの多さを知り、俄然燃えてきました。
- ・これまで公的扶助の現業員などを経験し、ソーシャルワークについても独学で勉強しましたが、やはり体系的に学習すると、勉強が足りなかったことがよく分かりました。大

学への入学を機会にこれからは、本物のソーシャルワーカーを目指して、学習を深めたいと思います。

- ・ 社会福祉は高齢者に対することがメインだと考えていましたが、ソーシャルワークの範囲の広さに驚きました。初めてのスクーリングで普段は福祉とは離れた仕事をしているので、先生のお話がとても新鮮に感じました。

### ●社会福祉援助技術論A・B

- ・ これまで援助はクライアントの自立を助けることだと考えていたが、クライアントの自助を助けるとの解釈は大変心に残った。“気持ちの預金”“常にそこにいること”など、先生の言葉一生忘れずにいます。
- ・ 講義の中で先生からいくつかの問いかけがありました。そのひとつひとつの問いを解き、一人称で話せる自分らしいソーシャルワーカーを目指したいと思います。当事者が抱える問題はソーシャルワーカーがすべてを解決するのではなく、ともに考えることで相互に作用しながら当事者が自覚して本当の変化をもたらし、問題の解決につながるということ学びました。
- ・ ソーシャルワーカー・アイデンティティの構築についてのお話を聞いて自分が他ならぬ自分であることを恐れずに自分なりのソーシャルワークをやればいと肯定してもらえたような気持ちになりました。自己覚知をし、当事者と共に悩み生きる1人の人間として、専門性を武器として柔軟に活用できるワーカーになりたいと思いました。

### ●福祉経営論（福祉施設管理論）

- ・ 経営理論で、フォロアーシップの説明がされ、現在の自分の状況と照らし合わせながら学ぶことができた。
- ・ 一支援者としての立場・視点からのみではなく、管理者・経営者としての視点から福祉を捉えるとどうなるのかがよくわかり、深く考えさせられた。
- ・ 福祉の視点も大切だが、経営の視点も同じく持っていないと利用者の利益にはならないと実感した。

### ●社会調査の基礎（社会福祉援助技術論Ⅱ）

- ・ 質的研究において、ラポール形成が大切な要素になることを学び、とても新鮮に感じました。「社会調査の基礎」という学問が、社会福祉士として求められる人間力の基礎にもなるのだと感じました。
- ・ 社会調査はこれまで苦手としていた分野でした。自分が経験した研究などでは、いつも最終的に詰め甘さを痛感していましたが、どの段階でどのように研究過程を振り返ればいいのか、今回の講義でわかったような気がします。

## ●高齢者福祉論

- ・介護保険制度が改正される中で、これまで理念にあったものも変更されていく、ということに非常に興味を持ちました。特に、「介護の普遍化」については今後も議論していかなければならない重要なものであると感じます。今後さらに増え続ける高齢者・高齢化の中で、現状を早期かつ的確に判断して行動していける福祉従事者（プロ）が必要になっていると思いました。
- ・社会参加と生きがいを持ち、高齢者になっても生活の質を落とさないでいること、ソーシャルサポートを受けられる環境を保つことは、考えてみれば、若い時からの生き様の反映であるようにも感じました。
- ・自分が寝たきりや認知症になった場合のことを今まで考えていなかった。今後の人生設計に加えていきたいと思う。
- ・改正される制度内容と、実情とがかみ合っていない。地方自治体ができることにも限界があり、国が進める方向に動いていない。現状をどう変えていくべきか？多くのことを考えさせられました。
- ・介護の現場で常に「変革者」として運動されているひとが存在することに興味を抱きました。自分もそういう人になりたいと思います。先生の「高齢者は、私です」という姿勢にも共感しました。私も同じ気持ちで働いています。
- ・福祉には金がない、ということ講義中繰り返し聞き、これからいかに大変になっていくか、実感を伴って知ることができました。とても楽しい授業で、重みと価値と、笑いがある時間でした。もっと先生のスクーリングを受けてみたいです。

## ●介護概論

- ・患者さんや利用者さんの「こだわり」のような要望に援助者はいかに対応していくべきか、という点に特に考えさせられました。単に患者さんや利用者さんが本当は1人でできることであるはずだとか、わがままであるなどと決めつけず、柔軟にそうするに至った背景をよく考えて対応すべきという考え方に感動し、共感しました。
- ・介護は相手を理解し、知識を身につけて正しい判断、評価をするのが大切だということ学びました。介護に対して肯定的な考え方は知識によって得られることを知り、それだけ厳しい環境が現実には存在することを想像します。事例を踏まえた講義であり、先生の熱い思いが伝わり、感動しました。
- ・講義のなかで紹介された、“自立は優れた依存の姿（かたち）”という言葉が強く印象に残りました。
- ・看取り、終末期についての講義内容に関心を持ちました。今年は親族を亡くす経験をし、より親近感を感じたように思います。人生の最期を悲しい別れとしないためにも、どうすべきか、何ができるか、とても考えさせられました。

## ●児童（・家庭）福祉論

- ・大人の都合で子どもは人生を翻弄させられるが、子どもは親へ純粋な愛情をまっすぐに注いでくれている。子どもの心身の安定にも、大人は子どもが安心できる環境を整備する必要があると考えさせられました。
- ・自分が想像していた以上に福祉を必要とする子どもの環境は苛酷であることが分かりました。講義のなかで聞いたり、映像として見たりしたもの以外にも存在する社会の中で表面化してこない子どもたちをどうサポートしていけば良いのか、個人として、社会として、改めて考える必要があると痛感しました。
- ・わたしは今まで子どもに対して“わがまま”だったり、大人の顔色を伺って態度を変えるなど“あまのじゃく”であるなどの印象を持ち、苦手な存在と感じていましたが、講義を通して子どもはあらゆるものの影響を一番先に強く受けやすい存在であることが理解できたように感じます。講義中、“子どもらしさ”という表現が出てきましたが、それも“大人の価値観”なのではないだろうか、「子どもにとって何が最善か？」などと考えさせられました。

## ●更生保護制度論

- ・犯罪が発生してからの流れがよくわかった。刑務所での受刑者の過ごし方など、普段知らないことを聞くことができた。罪を犯したから刑務所に入るのではなく、なるべく日常生活を送りながら改善・更生・社会復帰を目指す社会内処遇が重要視されているということが印象に残った。
- ・今回の講義を通して社会福祉士が刑務所に配属されるようになったことを学び、自分も以前勤め先で服役を終えた高齢者と関わる機会があったこともあり、自分の地域の刑務所や医療少年院などで受刑者の高齢化などの現状も踏まえ、何か役に立てられたらと思った。
- ・高齢者の犯罪・累犯障害者について学ぶことができ、意義深かった。近年司法と社会福祉が関わる動きが目立っているが、司法と福祉の本質や考え方の違いについてどのように折り合いをつけ、乗り越えていったらいいのか、今後も自分なりに考え続けていきたい。
- ・更生保護について、現状と課題が時代に合わせ、常に変化していることを改めて知る機会となりました。

## ●就労支援サービス論

- ・就労支援は障害者が自ら働いて給与をもらうことだけを目指すのではなく、色々な人がいることが当たり前だと思える社会となるよう働きかけることを目指す、ということに目から鱗が落ちる思いがしました。

### ●社会福祉援助技術演習A・I

- ・チーム・アプローチにおいて、異業種の人間を前に自分の意見を述べるためには豊富な知識が必要であるということ学びました。また、ソーシャルワーカーは足で稼ぐということ、プレゼンテーション能力は必須であるということも教えていただきました。
- ・現場で活躍されている先生の講義で、事例などがとても印象深く、参考になりました。社会福祉士に対する意識をはっきりとさせてくれました。
- ・援助者と相談者に分かれてのロールプレイがとても勉強になりました。どのようにして相談者から話を引き出すか、どのような地域資源があると提供していくべきのかなど多くの気づきが得られました。参加した人とも良い交流ができ、自分の幅を少し広げられたように思います。
- ・福祉のゴールは自己決定である、という言葉がとても印象深かったです。人は自ら問題解決能力があること、ソーシャルワーカーの立ち位置は横にならんで背中をおすということだと分かり、目からウロコです。
- ・2日間という短い時間でしたが、とても勉強になりました。社会福祉士に必要な考え方などをもう1度考えさせられる時間になりました。
- ・講義の中で「障害者は管理される」という当事者からの意見が心に残っている。支援に対する批判的な視点も持つことも重要であることに気が付かされた。障害者の自己肯定感を高めるような関わりについて考えるきっかけになった。

### ●社会福祉援助技術演習B・II

- ・話し手・聞き手・評価役のそれぞれの役をロールプレイで行い、自分では気が付かなかった癖や弱点、強みを知ることができ、非常に参考になりました。
- ・自由であることが自分らしい人生を送る、自己実現のための重要な方法、手段である、自由とは状態ではなく、能力であるという考え方を学び、とても印象に残りました。
- ・「言葉の仕組み」を理解することの大切さを実感しました。私は専門用語をただ覚え、それをわかったつもりになっていたのだと感じます。今後の更なる課題となりました。

### ●社会福祉援助技術演習C

- ・「困難事例は無い」という先生の言葉に、ハッとさせられました。決め付けてしまうことはよくない、ということ普段の業務の忙しさの中で忘れていたように思います。今後の日々の支援に、このことを忘れず取り組んでいきたいと思ひます。

### ●社会福祉援助技術実習指導A

- ・実習の心構えをしっかりと理解できるような講義でよかったです。モチベーションがアップしました。



●社会福祉援助技術実習指導B-1+演習C-1

- ・グループワークでほかの学生と交流でき、さまざまな考え方に触れることができ、勉強になった。
- ・「ソーシャルワーカーはクライアントがソーシャルワーカーなしで、地域生活ができるように支援を調整する」との言葉が印象に残りました。これを目標に実習に臨みたいです。

●社会福祉援助技術実習指導B-3+演習C-2

- ・ソーシャルワーカーには他人に頼ることのできる勇気と、面白いアイデアが必要である、という先生の言葉が印象深かったです。勉強になりました。
- ・自分の「当たり前」が本当に「当たり前」であるかどうか、常に考えながら支援を見直すことができるようにしていきたいと思います。他の実習先の様子もうかがえ、良い機会となりました。
- ・自分の実習の振り返りに役立ちました。今後の目指すソーシャルワーカー像をめざし、さらに学んでいきたいと感じます。